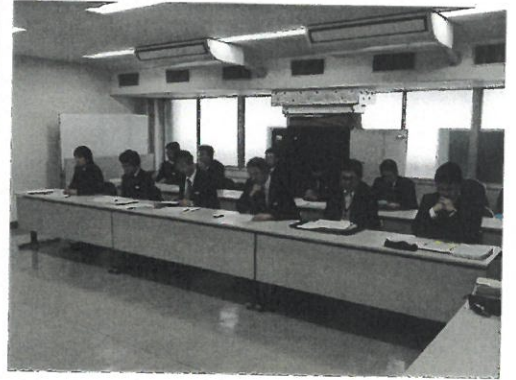


# 香教連速報

## 予算交渉

# 質の高い教育を確立するために、予算の拡充を強く要望!

香教連は、11月9日(水)14:00から県庁北館4階の402会議室において、香川県教育委員会との予算交渉を行った。香教連から矢代委員長以下4名が出席。県教委側は、西原教育長、矢木澤義務教育課長ほか12名が対応した。主な要望と回答は、以下の通り。**太字は要望項目**、香教連の主張はゴシック、県教委の回答は明朝斜体字で表記している。



【要望書を西原教育長に手渡す】

【香川県教職員連盟 参加者】

【香川県教育委員会 参加者】

○ 今年度より配置された校務支援員の成果と課題を検証し、学校の実情に合わせて増配置を推進すること。



【安本事務局長】今年度より、校務の支援を主に行う「校務支援員」が県内に6名配置された。学校の多忙感解消に向け、配慮いただいていることに対し、大変感謝申し上げます。

今年度からの配置ということもあり、校務支援員の成果と課題を検証することが大切だと考えている。そして、業務改善、教職員の負担感軽減に向け、積極的に市町教育委員会に働きかけていただきたい。現在配置されている学校での校務支援員の業務

としては、給食業務や集金業務、アンケートの集計等、学校や地域の実態に合わせたものとなっており配置校からは大変助かっているという声が聞かれていることから、校務支援員のさらなる増員をお願いしたい。

香教連としては校務支援員の任用について、学校の実情をよく知った退職教員が望ましいと考える。多忙化している学校において、退職された熟練教員が校務支援員として現場をサポートしていただけることは大変心強い。退職した教員を再任用し、校務を幅広く支援してもらうことで、現場の教員が子供たちと向き合う時間を確保することができると考える。教材研究や個に応じた指導が十分にできるよう、校務支援員の柔軟な配置や増員について検討していただきたい。

【矢木澤義務教育課長】

来年度についても、配置校は決定していないが、努力していきたいと考えている。今年度からの運用なので、来年度を含め2年間の成果と課題を検証していく。その中で、業務内容がマニュアル化できれば、他の学校でもそのノウハウを活かしていただける。

任用については、県教委としても学校の実情をよく知った方が望ましいと考えている。校務支援員については市町が人材を見つけることとなっているので、市町に働きかけていきたい。



○ 小学校での英語の教科化に向け、子供たちに質の高い英語教育を受けさせるために、各校への英語担当教員の配置を検討すること。



【原田副委員長】次期学習指導要領の改定に伴い、2020年の英語の教科化の実施が決まり、現場からは授業増や評価、中学校への系統性等、教科化の実施を不安視する声が強強い。現在の小学校の教員の多くは英語の免許はもちろん研修を受けた経験を持っていないという現状もあり、負担感を感じている教員も多い。

文科省は国の研修を受けた「英語教育推進リーダー」を増やし、リーダーから研修を受けた「中核教員」を全小学校に配置する計画である。学級担任が中心となって英語を指導できるように、県においても教育センター等において研修が計画的に進められている。

教科化に向けて研修も進んでいるが、香教連会員のアンケートの中には、英語担当教員の必要性についての記述も多くなっている。英語の教科化、2020年の実施に向け、今後早急に各学校現場での研修・体制づくりも必要不可欠と考える。子供たちに質の高い英語教育を受けさせるためにも、専科教員の配置も含め、英語担当教員の全校配置を早急にお願したい。

【右上に続く】

【左下より続く】

【矢木澤義務教育課長】

小学校段階における専科教育の有効性を認識している。英語の力を持った人が専科となるのが理想だが、多くの人が退職される中、小学校に指導に行ける人が少ないのが現状である。

県としては少なくとも推進リーダーを各学校に配置して、意識が高まるようにしていきたい。

来年度以降、各学校の先行実施に向けた指導体制に向け、市町教委に意識的に働きかけていく。また、先進校の視察等を通して環境整備をしていきたい。



○ 熟練教員の指導技術の継承のため、指導教諭を県内全ての小中学校に任用し、若年教員への指導のみならず校内指導体制の充実を図ること。



【山田講師部長】平成23年度小学校で10名で任用された指導教諭も平成25年度から中学校に、さらに平成28年度は小学校35校、中学校27校と、大幅に増員配置されてきたことに感謝申し上げます。香教連は長年、指導教諭の多数配置を要望してきた。これまで、「中学校への配置を含め、指導教諭の配置拡充について積極的に検討し、教員の指導力の向上に努める」という回答を頂いている。

近年、若年教員の指導技術の向上が喫緊の課題となっており、教員世代交代の中で、指導教諭を中心に、若年教員に優れた指導技術を伝授し、若年教員の指導力を向上させ、児童生徒へよい影響を与え教諭の指導力向上にもつながると考える。また、指導・助言を行うことで、教員の指導の改善及び充実のための必要など、各学校において、実践の先生方にも活気が出てきたり、若年教員に積極的に声かけする姿が見られるようになるなど、校内のファシリテーターとしての役割を担い、相乗効果が見られる学校もあると聞く。

そういった面からも今後、全ての学校に指導教諭が配置されることで、指導体制の充実が図られ、学校が活性化する等、学校全体により影響が生まれると考えている。指導教諭を全ての小中学校に任用・配置していただきたい。

【矢木澤義務教育課長】

指導教諭の配置については、若年の先生にとっても、学校全体にとっても有効だと考えている。

香教連からの要望も継続して挙がっており、今年度も増配置を実施している。予算的なこともあるので急激には増やせないが、学校全体の教育力向上のため、今後も増配置を努力していきたいと考えている。



【2面に続く】



